

# 長久手市 文化財マップ

長久手市

## 長久手市の指定文化財一覧表

◆国指定文化財						
種別	名称	所在地	指定年月日			
史跡	長久手古戦場 附 御旗山 首塚 色金山	武蔵塚205外5筆 富士桶602 岩作元門41 岩作色金山3の内一部		昭和14年9月7日		
	◆県指定文化財					
種別	名称	所在地	指定年月日			
無形民俗文化財	長久手の棒の手 岩作の「オマント」 長萩の警固祭り	長久手市 岩作地区 長萩地区		昭和31年6月21日 昭和60年11月25日 平成17年3月22日		
	◆市指定文化財					
種別	名称	所在地	指定年月日	所有者等		
史跡	長久手合戦史跡 ・長久手城跡 ・堀久太郎参謀本陣跡 ・木下勘解由塚	3か所	城塚敷2408、2409 坊の後113 荒田9-1	昭和58年2月26日	長久手市 景行天皇社 長久手市 神明社	
	神明社第2号古墳 三ヶ峯第3号墓	1基 1基	神門前420-1 岩作三ヶ峯1-16	平成3年5月27日 平成9年3月4日	神明社 石作神社	
	木造薬師如来坐像 (円空仏)	1躯	秋ノ洞2331	昭和59年7月17日	永見寺	
	旧北熊村の古文書	220件	岩作城内60-1	昭和63年7月19日	北熊区	
	御書 (円遣筆) 付 黒漆蒔絵箱 長萩 富宮講	1巻 1合 1脚	岩作城内60-1	昭和63年7月19日	長萩 日表講 長萩 富宮講	
	神明社の棟札 神明社の石造鳥居 多度神社の石造鳥居 景行天皇社の棟札	12枚 1基 1基 38枚	神門前420-1 神門前420-1 前熊志水108-1 西浦401	昭和63年7月19日 平成2年2月8日 平成2年2月8日 平成12年2月10日	神明社 神明社 多度神社 景行天皇社	
	丁子田1号窯・市ヶ洞 1号窯出土刻銘須恵器	10点	武蔵塚204	平成25年1月31日	長久手市	
	無形民俗文化財	長久手の警固祭り	1地区	上郷地区	昭和58年6月11日	前熊区 大草区 北熊区
	有形民俗文化財	前熊の山車 馬の塔廻絵馬 猿投三社大明神祭 岩作村西之切面輪 陶製御深井袖拍犬 木造 恵比須天・ 大黒天 二像	1台 1面 1幅 2344駆 1342駆	前熊志水108-1 松秋1855 岩作宮後17 西浦401 岩作宮後17	昭和58年6月11日 昭和58年12月12日 昭和60年7月15日 昭和60年7月15日 昭和63年1月11日	前熊区 三光院 石作神社 景行天皇社 石作神社

**長久手市郷土資料室**  
 長久手合戦400年を記念し昭和60年、古戦場公園に開室。長久手合戦の資料のほか、オマント(警固祭り)や棒の手などの市民資料も展示しています。

- 所在地/武蔵塚204番地
- 開室時間/9:00~17:00 (入室は16:30まで)
- 入 料/無料
- 休 日/月曜日・祝日の振替日・12/28~1/4
- TEL/0561-62-6230
- 駐 車 場/普通車49台・大型バス1~2台

編集発行  
**長久手市 生涯学習課**  
 〒480-1166 愛知県長久手市野田農201番地(長久手市文化の家)  
 TEL:0561-56-0627  
 HP: https://www.city.nagakute.lg.jp  
 令和4年6月発行 第5版

## 長久手合戦史跡

本能寺の變で倒れた織田信長の後継者争いの中で、立場を強めていく羽柴秀吉、脅威を感じた信長の次男信雄は、徳川家康に助けを求め、家康もこれに応じます。天正12年(1584年)3月に舉兵した羽軍、秀吉方の大山城攻めの際に足利氏と戦った。大森の両軍、羽軍の戦いの後は、小牧付近で膠着状態が続きました。三好秀次(秀吉の甥、後の關白)を総大将とする別働隊を送りましたが、その動きを察知した家康も軍を動かして追撃しました。こうして同年4月9日、長久手で激しい戦闘がおこりました。

この日の戦いで、秀吉軍は池田恒興(勝入)・元助(庄九郎)の父子、森長可など有力な武将を失い、家康軍が勝利しました。しかし、その後、秀吉は信雄と和睦、家康を命下に入れ、信長の後継者としての地位を確立します。家康は、秀吉に臣従こそするものの、その政権下で別格の地位を保ち徳川政権確立の足がかりを固めていきました。

**1 勝入塚 (国指定史跡)** Map E-7

秀吉方の武将、池田恒興(勝入)戦死地と伝えられます。突った「明和の碑」は、明治24年に恒興の子孫が建立しました。その左横の石柱「明和の碑」は、明和8年(1771)尾張藩士人見瀧右衛門と赤林孫七郎が古戦場跡を訪れた際、立てたもので、彼らは、同藩士の福富寛成が先に入った標木が朽ちて道跡が滅失しつつあるのを嘆き、造立しました。彼らのほかにも尾張藩士が顕彰のためにこの地を訪れた記録があります。

**2 庄九郎塚 (国指定史跡)** Map F-6

池田元助(之助)とすの書もあり、幼名庄九郎)の戦死の地と伝えられます。元助は池田恒興の長男で、父とともにこの地で戦死。恒興同様、「明和の碑」が建てられています。また庄九郎塚の左側「勝道九兵衛秀風討死之墓/池田一族」と刻まれた石柱も長久手合戦にちなむものと見られます。

**3 武蔵塚 (国指定史跡)** Map F-6

尾張守(美濃国金山城主)の戦死地と伝えられます。首名にちなんで武蔵塚とよばれます。勇猛果敢な武将として知られ「武蔵殿」とも呼ばれました。人見、赤林による「明和の碑」と、子孫が明治31年に立てた「明和の碑」があります。

**4 御旗山 (国指定史跡)** Map D-6

色金山に兵を進めた家康は、秀吉の様子をうかがいながらこの山に進軍し、頂上に色金山の旗原を立てました。後年、地元の人々がまつた富士社が山頂にあり、その祠殿前に「御旗山」と記す石柱があります。

**5 首塚 (国指定史跡)** Map C-7

岩作村安昌寺の雲山和尚が、合戦で戦死した多くの将兵の屍を集めての塚を築き、手厚く葬った跡とされます。首塚は、「長久手合戦」の「色金山」の頁でも安昌寺にまつる経緯にはつきりと描かれています。塚上に宝永3年(1706)の福富寛成の碑や明治43年(1910)の地元有志の撰文碑が立てられました。

**6 色金山 (国指定史跡)** Map C-8

秀吉方岡崎別働隊を退けて北方に進軍してきた家康軍が軍を止め、山頂の巨石を床机がわりに軍旗を閉じたと言われます。その巨石「床机石」の傍らに宝永3年の福富寛成の碑、明治43年の地元有志の撰文碑が立ちます。床机石を少し南へ下った山中には、家康軍の武将で長久手合戦で戦死した作首守盛達の墓もありです。色金山は、尾張国八郡の名勝「別勝を網羅し回遊した江戸時代後期の名所要覧『尾張名所図会』でも、「色嶺」として一頁を使ってお紹介されています。

**7 長久手城跡 (市指定史跡)** Map E-5

長久手合戦の折、徳川方の丹羽氏についていた加藤太郎右衛門景康の隠居跡。忠原は、義弟岩崎城主羽羽氏次の留守を預かって奮戦しましたが、岩崎城は落城、戦死しました。文化6年(1809)、城跡に加藤氏末孫の尾張藩士が立てた石碑が現存します。

**8 堀久太郎参謀本陣跡 (市指定史跡)** Map D-5

秀吉方岡崎別働隊の軍監だった堀秀政が、三好隊を退けるために陣を置いたとされます。「堀久太郎参謀本陣跡」と刻む碑の当時の設置年、位置・造立者は不明ですが、昭和45年(1970)に徳川組山頂に置かれ、区画整理で若干移動して現在位置に立てられました。

**9 木下勘解由塚 (市指定史跡)** Map C-3

白山林の戦いから敗走してきた総大将三好秀次に、木下勘解由利が自分の馬を与えて逃げさせ、追ってきた徳川勢と奮戦し、兄の木下助左衛門祐久(周防守)とともにこの地で戦死しました。石碑は、昭和54年(1979)の建立。東50mに木下防守戦死地とされる塚があります。

## 寺社と文化財

**10 聚福院** Map C-3

曹洞宗の寺院で、尾張三十三観音の三十一番札所です。昭和42年に名古屋城下の東寺町から移転しました。

**11 豊善院** Map E-4

いわゆる修験道に属する真言宗醍醐派の寺院。長萩のお薬師さんとして親しまれています。

**12 常照寺** Map D-4

浄土真宗高田派。長萩村の村寺で、三将の墓石と伝わる古い五輪塔があります。

**13 豊龍院** Map D-6

真言宗醍醐派。岩作のお薬師さんとして知られており、室町時代の作と伝わる古い仏像のほか、境内には山ノ神の祠などがあります。

**14 教園寺** Map C-7

浄土真宗高田派。岩作村の村寺で、本尊は阿彌陀如来です。江戸時代、寺子屋が置かれたこともあり、境内には家康寄進と伝わる葵の付陣羽織が伝わります。

**15 安昌寺** Map C-8

曹洞宗。合戦後、雲山和尚が戦死者を手厚く供養したと伝わる。後年、尾張藩主をはじめ多くの藩士が当寺を訪れ、合戦にまつる各種の書付を残しました。また丹羽氏次の田舎草履状などの文書やうづまびという大蛇の談話絵馬(写真)など美術工芸品も伝わります。8月10日、観音堂の九万九千の祭りに多くの人で賑わいます。

**16 前熊寺** Map D-10

曹洞宗。中世に、当地の豪族福岡太郎左衛門が建立したのが始まりといわれています。境内には、かつて津島神社の社殿であった建物が、現在も前熊の御堂として残されています。また円空作の草鞋天立像(写真)も伝わります。

**17 観山寺** Map C-9

曹洞宗。明治初年に地元人の私産として創建された尼寺で、昭和17年(1942)に現在の神社になりました。

**18 昌隆寺** Map D-9

曹洞宗。安昌寺の末寺でした。前熊村に古くから伝えられた薬師像が本尊です。

**23 富士社** Map D-6

飯河(静岡県)に本社がある富士浅間神社の先達・青山重夫夫といる人が創建した富士山信仰の社。長久手合戦史跡「御旗山」の碑が境内にあります。

**24 石作神社** Map C-7

岩作村の氏神として崇拝されてきました。承和元年(834)鎮座と伝わり、祭神は石作連の祖、藤原利能。古代の法典『延喜式』にも記されています。また天保9年(1838)製作の「木造恵比須天・大黒天」(市指定文化財 写真)も祀られています。

**26 御嶽神社** Map C-8

安政2年(1855)、岩作高根山に木曾御嶽の分霊を祀ったことに始るといわれる神社です。

**27 多度神社** Map C-10

前熊村の氏神です。水の神様として知られる多度神社の「石造鳥居」(市指定文化財 写真)は、寛文元年(1661)建立。形式は明神鳥居です。天王祭りと呼ばれる際は境内に「前熊の山車」(市指定文化財 写真)が曳き出されます。この山車は、名古屋の古出町から譲り受けられたと伝わります。構造的には、輪掛付外輪、脚山に高欄が付き、上山道上げ可能で、板橋が付き、屋根は、起り破風形で、上面には雨戸が取り付けられています。素朴な形式ですが、名古屋山車の古い形式を知る上では貴重な山車です。

**28 熊野社** Map B-10

大草村の氏神です。古くは八幡社といったのを明治初年に熊野社と改称しました。境内に大草城跡の碑があります。

**29 神明社** Map E-12

北熊村の氏神です。「神明社の石造鳥居」(市指定文化財 写真)は、寛文2年(1662)建立。形式は八幡鳥居に似ています。また「神明社の棟札」(市指定文化財 写真)には、職人のほか村役人の名、願い文などが記されています。享保17年(1732)の造り付けが最古です。

**25 直会神社** Map C-6

神事が終わって陣に供した神酒や食物をおろしていただく酒宴「オカライ」が行われた場所と考えられます。地元の文人浅井菊寿の碑(写真)もあります。

**19 永見寺** Map B-10

江戸時代初期は臨済宗の寺でしたが、後に曹洞宗になったと伝わります。本尊は市内最古の仏像といわれる地藏菩薩立像です。また円空作の「木造薬師如来坐像」(市指定文化財写真)も伝わります。境内には岩間町から移された小五郎殿の碑があります。

**20 三光院** Map C-10

真言宗醍醐派。「馬の塔廻絵馬」(市指定文化財 写真)の所蔵者としても知られています。城跡に伴う堀・土塁・虎口などが、それ以前に築かれた中世集落の遺構を破綻する形で構築されていることが判明しました。城の建築・築城年代は正確には不明ですが、出土遺物の変化から、15世紀後半ごろから16世紀後半築城期だと推定されています。古蹟戸部品を多量に含む多量に豊富な陶器類が出土しました。特に注意すべきは茶室遺構である土目茶碗。武士の居住空間ならでの遺物です。天保年間(1830~1844)に成立した地誌『尾張』では、城主は今井四郎兵衛あるいは今井五郎太とされています。

**21 宗延寺** Map D-11

浄土真宗高田派。北熊の村寺で本尊は阿彌陀如来。境内に祀られている大目如来像は、室町時代のもといわれています。この地蔵は、大目サソと呼ばれていたともあり、8月14日にはお供え物をもって地元の人が集まります。

**22 景行天皇社** Map E-5

長萩村の氏神です。社伝によれば承和4年(837)の創建で、日本武尊の父、景行天皇を祀ります。「景行天皇社の棟札」(市指定文化財 写真)は、江戸時代のものでほとんどですが、享保3年(1530)のものも2枚あります。同社所蔵の「陶製御深井袖拍犬」(市指定文化財 写真)は、享保3年(1753)製作。豹犬としては縦横的な形状で、室町年間以前の様式がうかがえます。背面に刻まれた「双岩牛者」の文字から、この拍犬は長久手村の若衆が氏神の景行天皇社に奉納したもので、その時代に若衆制度があったことがわかります。

**23 熊野社** Map B-10

大草村の氏神です。古くは八幡社といったのを明治初年に熊野社と改称しました。境内に大草城跡の碑があります。

**26 御嶽神社** Map C-8

安政2年(1855)、岩作高根山に木曾御嶽の分霊を祀ったことに始るといわれる神社です。

**27 多度神社** Map C-10

前熊村の氏神です。水の神様として知られる多度神社の「石造鳥居」(市指定文化財 写真)は、寛文元年(1661)建立。形式は明神鳥居です。天王祭りと呼ばれる際は境内に「前熊の山車」(市指定文化財 写真)が曳き出されます。この山車は、名古屋の古出町から譲り受けられたと伝わります。構造的には、輪掛付外輪、脚山に高欄が付き、上山道上げ可能で、板橋が付き、屋根は、起り破風形で、上面には雨戸が取り付けられています。素朴な形式ですが、名古屋山車の古い形式を知る上では貴重な山車です。

**28 熊野社** Map B-10

大草村の氏神です。古くは八幡社といったのを明治初年に熊野社と改称しました。境内に大草城跡の碑があります。

**29 神明社** Map E-12

北熊村の氏神です。「神明社の石造鳥居」(市指定文化財 写真)は、寛文2年(1662)建立。形式は八幡鳥居に似ています。また「神明社の棟札」(市指定文化財 写真)には、職人のほか村役人の名、願い文などが記されています。享保17年(1732)の造り付けが最古です。

**25 直会神社** Map C-6

神事が終わって陣に供した神酒や食物をおろしていただく酒宴「オカライ」が行われた場所と考えられます。地元の文人浅井菊寿の碑(写真)もあります。

## 城跡

市域では、鎌倉時代から戦国時代にかけて築かれた「中世城跡」の跡がいくつかみられます。「城跡」とは、堀や土塁などの防御施設を備えた軍事施設としての「城跡」と、領主たる城主一家の居住・儀礼・行政空間としての「居館」といった二つの機能を併せもった施設です。守り固めを破綻する形で構築されていることが判明しました。城の建築・築城年代は正確には不明ですが、出土遺物の変化から、15世紀後半ごろから16世紀後半築城期だと推定されています。古蹟戸部品を多量に含む多量に豊富な陶器類が出土しました。特に注意すべきは茶室遺構である土目茶碗。武士の居住空間ならでの遺物です。天保年間(1830~1844)に成立した地誌『尾張』では、城主は今井四郎兵衛あるいは今井五郎太とされています。

**30 岩作城跡 (岩作城内)** Map C-7

現在地名に残るように、市役所の敷地周辺は岩作城の跡地です。昭和60年・平成10年の発掘調査で、城跡に伴う堀・土塁・虎口などが、それ以前に築かれた中世集落の遺構を破綻する形で構築されていることが判明しました。城の建築・築城年代は正確には不明ですが、出土遺物の変化から、15世紀後半ごろから16世紀後半築城期だと推定されています。古蹟戸部品を多量に含む多量に豊富な陶器類が出土しました。特に注意すべきは茶室遺構である土目茶碗。武士の居住空間ならでの遺物です。天保年間(1830~1844)に成立した地誌『尾張』では、城主は今井四郎兵衛あるいは今井五郎太とされています。

**32 岩作西城跡 (岩作敷田)** Map C-5

「尾張志」に記された岩作村内の二つの古戦跡のうち「西ノ城」にあたります。明治時代の地籍図上で堀地と宅地からなる区画らしき部分が城跡と推定されますが、詳細は不明です。

**33 福岡太郎右衛門館跡 (前熊橋ノ本)** Map D-10

現在の熊野寺の境内一帯がその館跡とされますが、構造など詳細は不明です。城主は熊野寺の前身と合寺の開基福岡太郎右衛門とされています。

## その他

**御書 (円遣筆/市指定文化財)**  
 付 黒漆蒔絵箱 付 黒漆四脚台座

浄土真宗高田派本山専修寺の第十八世 円遣上人が、天明4年(1784)6月14日付けで、愛知郡高針村の蓮教寺と長久手村の常照寺の「十四日講」(十四日夜に読まれる念仏講)に与えた書です。巻子本。

**34 堂** Map D-6

市内には仏像などを安置した堂があちこちにあります。役の行者堂(神変大菩薩)の行者堂、弘法大師(空海)の弘法堂のほか、大日堂、観音堂、地藏堂、薬師堂、不動堂などです。

**35 石仏** Map C-7

観音や地藏の石仏は、より身近な守護者として巷におかれ、庶民の日常生活の中で敬愛されてきました。丸彫り、舟形彫りの像が、現在も道筋の小堂などに置かれて、地域の人が花や供物を供えています。

**36 道標** Map B-8

市内には、三州道、八草道、山口道、岩作道、瀬戸・鳴海道、長瀬道などの道標が残り、その道筋には道標(道しるべ)が立っていました。ほとんどの道標は、寺院などで建てられ、建立当初の位置に現存するものはわずかにあります。

**37 常夜燈** Map C-10

江戸中期以降、防火の神として秋葉信仰が盛んになり、シマと呼ばれる地域区分ごとに石の常夜燈が立てられました。各戸が当番で、毎夜常夜燈に火を献上しました。

**38 山ノ神** Map C-7

炭焼や木くりなどにとっての山ノ神は、自分たちの仕事場である山を守護する神。農民にとっては、春は山から下って山神となり、秋には再び山に戻り山ノ神になるという信仰があります。

**42 喜婦嶽地藏** Map C-5

昭和7年(1932)5月5日、喜婦嶽の地下70メートルの無形窟で、夫の墓が境内にある13名の丈夫が境内に閉じ込められる事故が起きました。その遭難者の霊を供養した地藏です。

**43 二本松塚** Map F-7

松の木が2本あったのでこの名がつけられました。松材のはずれで、オンカ送り(虫送り)場になっていたため、オナカ松ともいいました。

**44 耳塚** Map D-6

江戸時代、岩作には地誌に「百八塚」と記されるほど多くの塚がありました。耳塚は、来歴は不明ですが、耳の病気に効くといわれ、自然石らしい石が祀られています。

**31 大草城跡 (溝之秋・秋ノ洞・北浦)** Map B-9

土地はほぼ台地形で、現在は熊野社や畑などになっています。主郭を取り囲むようにして東方向多数の小の郭、帯曲輪、土塁などが配置され、折れを多く設けた城の構造から、永祿・天文間に修築されたとみられています。「尾張志」には、城主として福岡新助の記録があります。

**7 長久手城跡 (城塚敷)** Map E-5

前出の血脈太郎右衛門宗景の居住跡。幅3~6m、深さ1.7~7.5mの堀跡を挟んで、台形の平面をもつ土城と長方形の南城が並立する構造跡があったことがわかっています。

**32 岩作西城跡 (岩作敷田)** Map C-5

「尾張志」に記された岩作村内の二つの古戦跡のうち「西ノ城」にあたります。明治時代の地籍図上で堀地と宅地からなる区画らしき部分が城跡と推定されますが、詳細は不明です。

**33 福岡太郎右衛門館跡 (前熊橋ノ本)** Map D-10

現在の熊野寺の境内一帯がその館跡とされますが、構造など詳細は不明です。城主は熊野寺の前身と合寺の開基福岡太郎右衛門とされています。

## 旧北熊村の古文書 (市指定文化財)

現在の熊野地区東部に当たる旧北熊村の史料。近世初期寛文年間(1661~1716)の「田畑高札」、宝暦元年(1751)の「徴税令書(免状)」、「張州府志」編纂のための村誌図説などがあります。

**39 庚申塔** Map C-10

「庚申待ち」とは、干支で60日に1回巡ってくる庚申の日に際して、天帝に命を奪われるという道教的な説に、畏らうと健康長寿を祈念する行事です。市域でも広く行われ、講が結ばれ、庚申塔が立てられました。

**40 八左衛門の墓** Map D-6

八左衛門という男がいて、乱暴者だったので、村人に生き埋めされました。死に際にして自らを非を背け「頭下の病(目・鼻・口・歯・耳・頭の病)を治してやる」と言って絶えたといわれます。八左衛門はたいへんな大食家だったので、後の人々は墓の裏に食べ物を入れて病氣平癒を祈願したと伝わります。

**41 八大龍王の碑** Map B-6

立石池の堤の上立つ大正2年(1913)の雨乞い碑です。この年は7月5日から48日間雨が降らず、村内3ヶ所の真言宗の寺の法印がかりな祈禱をしたところ、7日目に龍が雲を呼び、にわか雨が降ってきたといわれます。

**42 喜婦嶽地藏** Map C-5

昭和7年(1932)5月5日、喜婦嶽の地下70メートルの無形窟で、夫の墓が境内にある13名の丈夫が境内に閉じ込められる事故が起きました。その遭難者の霊を供養した地藏です。

**43 二本松塚** Map F-7

松の木が2本あったのでこの名がつけられました。松材のはずれで、オンカ送り(虫送り)場になっていたため、オナカ松ともいいました。

**44 耳塚** Map D-6

江戸時代、岩作には地誌に「百八塚」と記されるほど多くの塚がありました。耳塚は、来歴は不明ですが、耳の病気に効くといわれ、自然石らしい石が祀られています。